



〔海の状況(9/16~10/15)〕

- ・ 神子地先の表面水温… 期間を通して平年よりかなり低め(平年差-1.5~-1.0℃)から平年並み(平年差±0.5℃)で推移した。(図1)
- ・ 米ノ地先の表面水温… 期間を通して平年よりかなり低め(平年差-1.5~-1.0℃)から平年並み(平年差±0.5℃)で推移した。(図2)

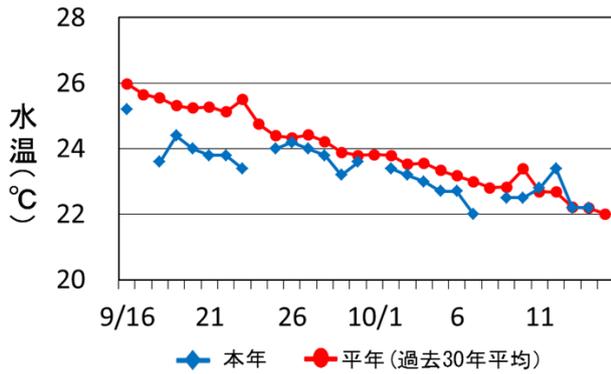


図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移

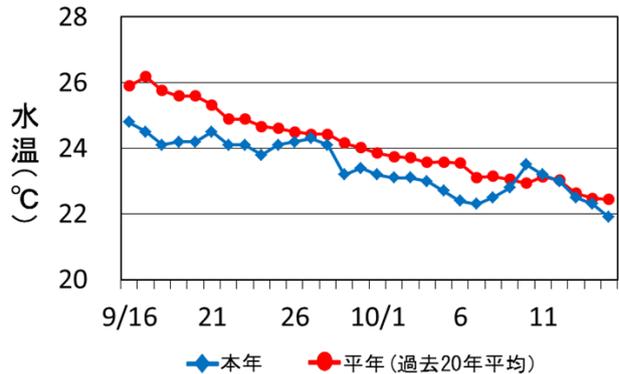


図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：9月〕

9月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(0m)では、京都府沿岸で28℃以上と前年より高くなっていた。水深100mでは、山陰・若狭沖の冷水域の規模は昨年よりかなり小さかったが、接岸距離は昨年並みであった。(図3)

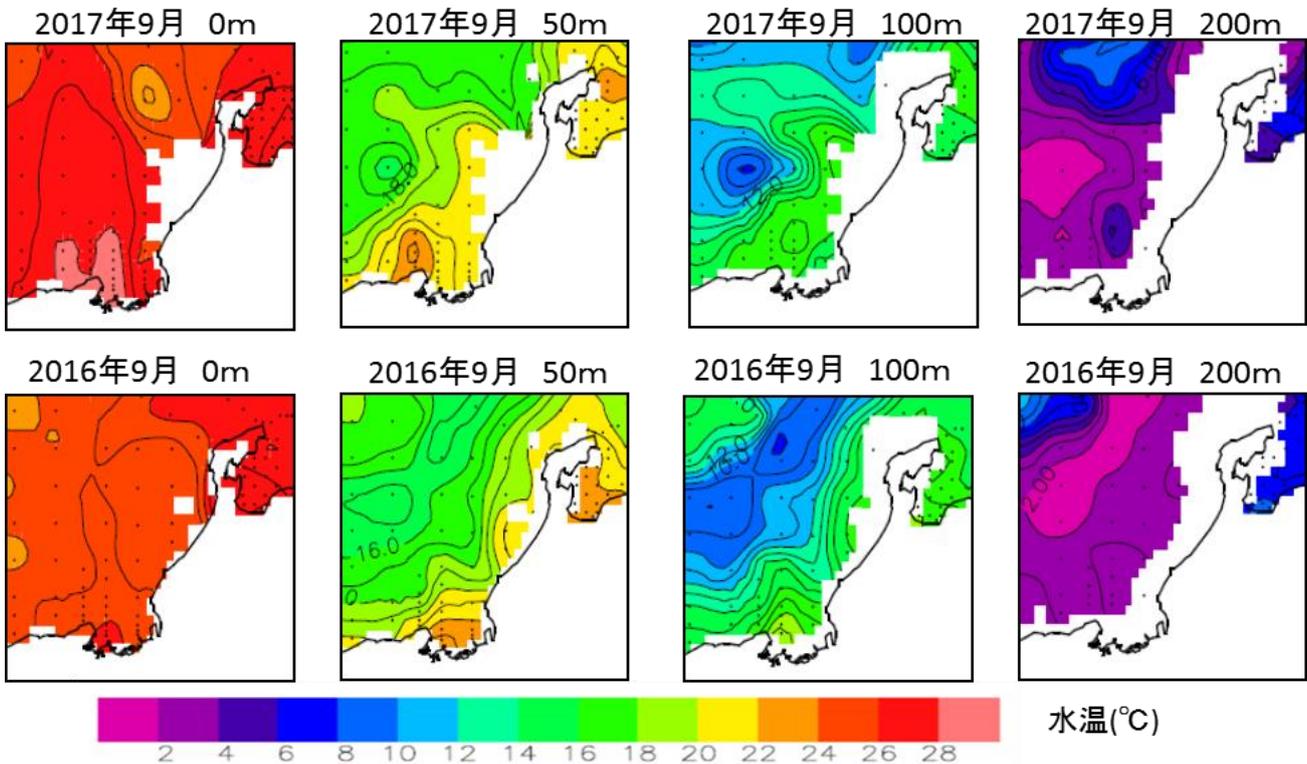


図3. 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図(日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

平成 29 年度 第 3 回 日本海海況予報

水産研究・教育機構 日本海区水産研究所から日本海海況予報が発表されましたので概要をご紹介します。

○対馬暖流域の表面水温はやや高め(1.0℃程度)で経過する。

○対馬暖流域の 50m 深水温は日本海北部及び西部ともに平年並み (±0.5℃程度)で経過する。

○山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模は平年並みで接岸距離はやや離岸で経過する。

※予報は水産研究・教育機構のホームページ(<http://www.fra.affrc.go.jp>)においても閲覧することができます。

〔県内の漁模様：9月〕

2017年9月の県内の総漁獲量は1,108tで、昨年同月を487t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は782tで、昨年同月を452t下回った。ウルメイワシ、カタクチイワシ、カツオ類等は昨年同月を上回り、ブリ類、シイラ、サワラ等は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は261tで、昨年同月を42t下回った。マダイ、キダイ、キス類等は昨年同月を上回り、アカガレイ、その他カレイ、アカエビ等は昨年同月を下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は65tで、昨年同月と同等であった。カジキ類、スルメイカ、ケンサキイカ等は昨年同月を上回り、キダイ、ソデイカ、タコ類等は昨年同月を下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(9月)

定置網	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
マイワシ	1,452	0	121	1,452	1,331
ウルメイワシ	2,384	1	557	2,383	1,826
カタクチイワシ	2,418	0	4,185	2,418	-1,766
アジ類	57,548	55,746	59,287	1,801	-1,739
サバ類	4,635	8,565	15,821	-3,930	-11,185
マグロ類	570	620	822	-50	-252
カジキ類	3,520	3,598	12,263	-78	-8,743
カツオ類	4,468	943	1,780	3,525	2,688
ブリ類	60,114	95,525	123,391	-35,411	-63,278
(ブリ)	596	174	79	422	517
(ワラサ)	4,217	5,155	10,190	-938	-5,973
(ハマチ)	8,939	6,224	13,477	2,715	-4,537
(ツバス)	27,392	68,259	80,207	-40,867	-52,815
(アオコ)	18,969	15,712	19,438	3,257	-469
ヒラマサ	818	3,323	7,759	-2,506	-6,941
シイラ	142,750	175,071	98,664	-32,321	44,087
サワラ	452,269	831,604	406,418	-379,335	45,851
マダイ	3,828	3,939	2,296	-111	1,532
その他タイ	2,162	2,615	850	-453	1,312
スズキ	1,696	2,015	2,001	-319	-304
カマス	5,327	6,558	18,389	-1,231	-13,062
フグ類	7,264	3,766	5,722	3,498	1,542
アオリイカ	5,768	10,530	8,389	-4,762	-2,621
ケンサキイカ	3,134	6,014	6,251	-2,881	-3,117
その他	20,057	23,303	17,173	-3,246	2,883
合 計	782,181	1,233,738	792,138	-451,557	-9,957

底びき網	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
マダイ	1,909	737	1,552	1,172	357
キダイ	16,041	10,805	12,171	5,236	3,871
アマダイ	1,198	631	1,022	567	176

底びき網の続き	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
アカガレイ	65,416	83,380	89,697	-17,964	-24,281
その他カレイ	19,321	25,259	36,541	-5,938	-17,221
アナゴ	3,865	5,103	4,073	-1,238	-209
メバル類	1,389	1,088	1,334	300	55
キス類	13,714	11,958	12,533	1,756	1,181
スルメイカ	2,924	3,941	1,436	-1,017	1,488
タコ類	3,318	6,238	8,052	-2,920	-4,734
アカエビ	79,564	91,066	63,732	-11,502	15,831
その他エビ	4,679	5,186	5,449	-507	-770
その他	47,489	57,009	80,949	-9,520	-33,460
合 計	260,826	302,400	318,542	-41,574	-57,716

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
カジキ類	4,111	1,618	314	2,493	3,797
ヒラマサ	348	1,645	303	-1,297	45
サワラ	1,006	1,486	255	-480	751
マダイ	1,430	1,474	2,429	-44	-999
キダイ	4,878	7,302	7,145	-2,424	-2,267
アマダイ	3,882	4,815	4,548	-933	-666
メバル類	4,441	3,217	2,858	1,224	1,584
スルメイカ	3,926	55	5,653	3,871	-1,727
アオリイカ	1,162	1,199	1,762	-38	-601
ケンサキイカ	2,209	444	5,857	1,764	-3,649
ソデイカ	7,863	10,392	9,842	-2,529	-1,979
タコ類	2,104	3,696	4,078	-1,592	-1,974
その他	27,240	21,317	30,221	5,923	-2,981
合 計	64,600	58,661	75,265	5,938	-10,665

全漁法	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
合 計	1,107,607	1,594,799	1,185,945	-487,193	-78,338

※1 平年の値は2007-2016年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。
 ※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：9月の定置網の1日あたりの漁獲量。京都府：9月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。兵庫県：9/1-9/30の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県：9月中旬～10月上旬のまき網の1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…サワラ類4.9t、フクラギ・コゾクラ(2kg以下のブリ)3.7t、カマス2.7t、サバ類2.3t、マアジ1.8t
 京都府…定置網…サワラ類4.6t、シイラ2.9t、マアジ1.3t、サバ類0.8t、アオコ0.5t、ツバス0.3t
 兵庫県…定置網…マアジ124kg、ツバス37kg、ウルメイワシ33kg、カンパチ13kg、マサバ5.5kg
 鳥取県…まき網…マイワシ36.4t、カタクチイワシ10.9t、ブリ類5.8t、マサバ5.2t、ウルメイワシ3.4t、マアジ1.3t

(漁場環境グループ 山下 慎也)

「越前がに」の資源状況について

今年も、11月6日に「越前がに」漁が解禁されます。調査船「福井丸」により実施したトロール調査結果を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

漁獲動向（図1）

福井県底曳網漁業協会の集計による漁獲量の経年変化は、最低であったS54年度以降は増加傾向となり、近年は400～500tで推移しています。H28年度は、雄雌ともに漁獲がH27年度より減少し、雄で42t減の260t、雌で8t減の163tでした。

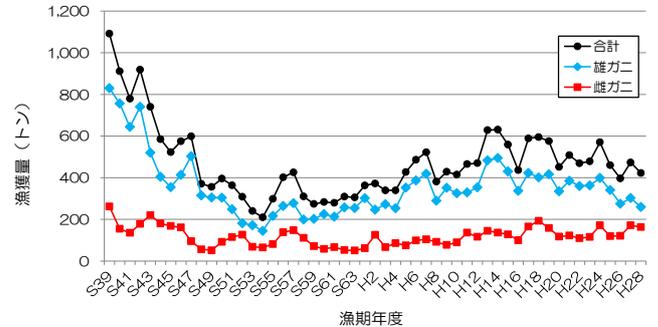


図1 ズワイガニ漁獲量経年変化

資源状況（図2）

雄についてみると、今年の漁獲の主体となる12歳の資源水準は昨年並みですが、今年から水ガニとして漁獲の対象となる11歳の資源水準は昨年より低い状況にあると考えられます。今漁期に漁獲対象となる雄の資源量を推定したところ、昨年並みの2,396tと算出されました。

また、雌についてみると、今年から漁獲の対象として加入するクロコ（経産ガニ）資源水準は低い結果となりました。今漁期に漁獲対象となる雌の資源量を推定したところ、昨年を下回る268tと算出されました。ただし、国の調査結果では雌の資源量に大きな減少がみられないことから、本県の結果は過小評価と考えられます。

漁模様

今漁期は、自主規制により水ガニの漁期が昨年より10日間短縮されるものの、漁獲の主体となる資源が昨年をやや上回ることから、雄の漁獲量は“昨年並み”となることが見込まれます。

また、雌の漁獲量は“豊漁であった昨年をやや下回る”ことが見込まれます。

（漁業管理グループ 松崎 賢）

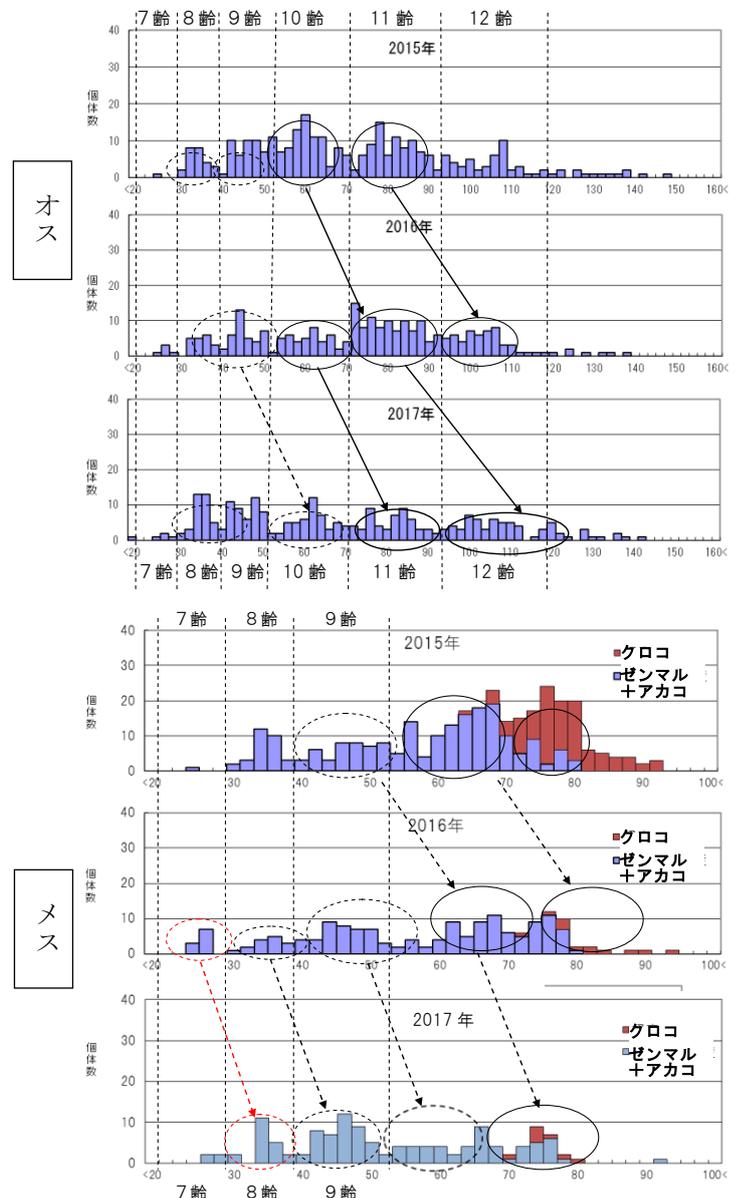


図2 トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成 (X軸:個体数 Y軸:甲幅 mm)